

人工妊娠中絶をお考えの方へ

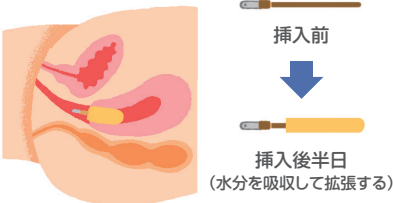
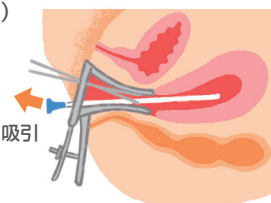


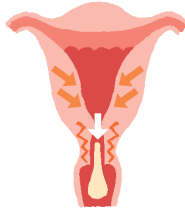

ポイント

- 妊娠初期の中絶は、手術で行う方法と、薬を使う方法があります
- それぞれのメリット・デメリットがあるので、説明をうけましょう
- どちらの方法も、かなり少ないですが、危険性がないわけではありません
- からただけでなく、気持ちの不調があるときは、ひとりで悩まず相談しましょう



中絶の方法

医療機関によって対応できる方法に限りがある場合がありますが、妊娠12週未満では手術で行う方法、妊娠9週0日以下では薬で排出させる方法があります

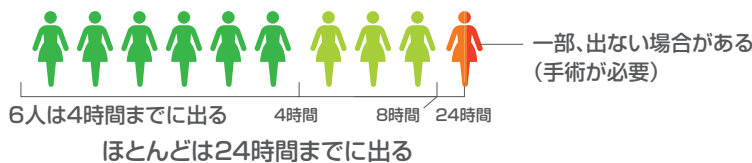
	手術12-24時間前	手術	術後2-6時間
手術法	閉じている子宮口をゆっくり安全に広げるための処置を行います 	全身麻酔によって眠っている間に、子宮のなかみを吸引器や器械で取り除きます(15分程度) 	全身麻酔による眠気などがなくなり、子宮、出血などの状態を診察して問題がなければ帰宅できます 
	1つ目の薬 医療機関内で内服します 妊娠の進行、維持を止める作用のある薬を飲みます 1つめの薬だけで子宮のなかみが出てくることもあります 	36-48時間後2つ目の薬 医療機関内で口腔内投与します 子宮口を広げ、子宮を収縮させる作用によって、なかみを出す薬を使用します 重い生理痛のような痛みを感じることもあります 	0-24時間 かかる時間はまちまちです(下図参照) 子宮のなかみが出たら、子宮、出血などの状態を診察して、問題がなければ帰宅できます 

人工妊娠中絶はどちらの方法も、母体保護法指定医師が所属する医療機関でしか受けられません

それぞれの方法の特徴

	特徴	副作用		その他の共通の副作用
		●子宮が傷つく	●なかみが残る ●再手術の可能性	
手術法	●妊娠12週未満 ●退院の日時があまりずれない ●全身麻酔で行う ●痛みはほとんどない	1/3000程度	1/300程度	●多量の出血 ●感染症 ●アレルギー反応
薬剤法	●妊娠9週0日以下 ●出るまでの時間がまちまち ●麻酔と手術をしなくてよい ●腹痛がある	ほとんどない	1割弱程度 薬で出ない場合は手術が必要(下図参照)	

2つ目の薬を使用してから
なかみが出るまでの時間
(10人中)



こころのサポート

- 妊娠中絶を受けた8割の方は、つらい経験だったと感じ、半数の方では、半年以上経ってもつらさが続きます。
- 妊娠中絶の経過によっては、次の妊娠に影響をおよぼすことがあります。

今まで通り眠れなくなったり、日常生活に支障をきたしたり、判断力が落ちたりする場合があります。精神的には大丈夫と思っても、からだの不調が出てくる場合もあります。この様なとき、中絶の理由を問わず、同じ経験をした人によるピア・サポートグループや、自治体の相談窓口などで精神的なサポートを受けられます。ひとりで抱え込まずご相談ください。

自治体の相談窓口一覧

